

第2回角田市長期総合計画審議会会議報告書

1. 日 時 令和2年11月4日（水）午前10時00分から午後0時10分まで

2. 場 所 角田市役所301会議室

3. 出席者

(1) 角田市長期総合計画審議会委員24名（別添委員出席者名簿のとおり）

(2) 事務局12名（別添事務局出席者名簿のとおり）

(3) 角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者

七十七リサーチ&コンサルティング株式会社

調査研究部 部長 山下 勝善

調査研究部 上席研究員 木村 暢男

調査研究部 上級研究員 皆川 乾介

株式会社日本経済研究所 客員上席研究主幹（アドバイザー） 金谷 隆正

4. 内 容（概要）

1 開会

2 会長あいさつ

本日は第2回長期総合計画審議会に参加していただき、誠にありがとうございます。さて、審議を始めるにあたり、物事に対する向き合い方について一言申し上げておきます。

物事に真剣に向き合うと「知恵」が出て、中途半端に向き合うと「愚痴」が出て、いい加減に向き合うと言い訳が出るという風に言われております。つまり、物事に対する向き合い方で結果というのは決まってしまうということになります。

同様に、私たちも、この長期総合計画に対して真剣に向き合わないと、角田市の未来についてなかなか「知恵」が出てこないということになりますので、本日の審議会につきましても、みなさん是非真剣に議論してまいりましょう。

どうぞよろしく願いいたします。

3 市長あいさつ

第2回の審議会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、お忙しい中、朝早くからご参集賜りまして、本当にありがとうございます。

さて、本日の審議会につきましては、冒頭で角田市の財政状況について説明させていただき、その後、角田市の基礎調査、市民意識調査、市職員の施策動向調査の分析・検

証結果についてご説明させていただきます。

角田市の厳しい財政状況をしっかりと皆さんに認識していただき、様々な統計データから見えてくる角田市の現状、市民意識調査から得られた市民の皆様の貴重なご意見、第5次長期総合計画の評価・検証、これらの調査結果を踏まえたうえで、今後、角田市が進むべき道をどのように示していくのか、模索していくのか、という点についてしっかりとした議論を行っていただきたいと思います。

また、過日、開催されました定例議会におきまして、私の所信表明を行いました。その中の5つの重点項目について、簡単に紹介させていただきますと、まず、第一に「命を守り豊かにはぐくむ、安心安全なまちづくり」、第二に「子どもたちと共に、生きる力を養う、ひとづくり」、第三に市民と市役所の連携を含めた「連携を強める」、第四に「地域産業の振興」、そして最後に第五として「地域活性化」ということで、様々なものを総動員して交流人口を拡大したうえで、定住人口につなげていくということが重要であると考えております。

これらの重点項目の要素につきましても長期総合計画の中にしっかりと入れ込んでいきたいと思っております。

さらに、市民意識調査によって、市民の皆様が角田市に対して思っているところが次第に明確になってまいりましたので、そのような市民の皆様の声を真摯に受け止め、長期総合計画に織り込んでいかななくてはならないと考えております。

第6次長期総合計画は、これからの角田市の背骨となる、最上位の計画であることを踏まえまして、皆様の豊かな経験、知見から是非忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。

ご審議の程よろしくお願いいたします。

4 報告

(1) 活動経過報告【資料「角田市第6次長期総合計画策定経過」】

(2) 角田市の財政状況について【資料1】

(1) 及び (2) について、事務局 ((1) : 齋藤企画調整係長、(2) : 玉渕企画財政課長) より、【資料「角田市第6次長期総合計画策定経過」】 及び【資料1】 に基づき、説明を行った。このことに係る質疑等は以下のとおり。

[齋藤(勤)委員]

一つ目が、【資料1】 5ページの経常収支比率のところ、資料には平成26年度からのデータしかないが、確か平成25年度が93%程度だったと記憶しており、平成26年度に大きく上昇していると思うのだが、その要因を教えてください。

二つ目が、【資料1】 7ページで、元利償還金のうち実質的な市の負担分が今後7億円程度となっているが、これには昨年の災害分についても織り込み済みということだよいか。

最後に、議会報告の中で道の駅が1千万円ほどの赤字との記載があったが、一方で来客数は当初計画を越える100万人を突破したという別の資料があり、来客数は順調にもかかわらず、赤字となっている理由を教えてください。

〔玉淵企画財政課長〕

まず、【資料1】7ページの公債費の件については、ご指摘のとおり台風19号関係災害に係る部分について、令和2年度中に借りるものも含めてすべて織り込み済みとなっている。したがって、今後大幅に増加するということは考えにくいと思われる。

続いて、経常収支比率の件については、手元に当時の資料がなく明確な回答ができないが、平成26年度以降上昇した理由としては、市民センター改修・改築に伴う維持管理費の増加、給食センターのオール電化による電気料の増加、社会福祉費が増加していること、などが考えられる。

〔大槻企画財政課長補佐〕

補足説明として、平成24、25年度あたりで法人市民税による収入が大きく、平成26年度にそれが大きく落ち込んだことにより、分母が減少したことが一つの要因と考えられる。

〔日下産業建設部長〕

道の駅の件については、隣接するKスポとの一体的な利用により来客数を伸ばしてきたが、そのKスポが昨年の台風被害により稼働が制限され、復旧後もコロナによる使用制限があったことが、赤字の大きな要因と考えられる。

今年度の上半期では、若干の黒字となっており、コロナの状況が収束していけば、業績も回復していくのではないかと期待している。

〔遠藤(撰)委員〕

ふるさと納税について、大きく増加している要因を教えてください。

返礼品にアイリスさんの製品が多いようだが、それが増加の大きな要因となっているのか。

〔日下産業建設部長〕

ご指摘のとおり、アイリスオーヤマさんの製品が相当伸びている。昨年からの伸び率が4～10月で200%となっている。その他の商品についてもラインナップを強化しており、その季節にあった返礼品を適切に準備していることが、ふるさと納税が増加している要因と分析している。

(黒須市長途中退席)

5 議事

角田市長期総合計画審議会条例第5条第1項の規定により、柳井会長が議長となり議事進行を行った。

(1) 基礎調査の分析検証【資料2】

(2) 市民意識調査、施策評価の分析検証【資料2】、【資料2-2】

(3) 人口ビジョンを踏まえた課題整理【資料2】

(1)～(3)について、事務局(角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者(七十七リサーチ&コンサルティング株式会社))より、【資料2】及び【資料2-2】に基づき、説明を行った。このことに係る質疑等はなし。

その後、説明内容を踏まえ、各委員が考える角田市の将来像等について、一人ずつ発言があった。その発言内容は以下のとおり。

[柳井会長]

ここまでで説明のあった角田市の財政状況、基礎調査・市民意識調査・施策評価の分析検証結果等を踏まえ、委員の方々に角田市の将来像について一人ずつご発言をいただきたい。

[遠藤(恵)委員]

児童の福祉に関わっているため、それに関係するものを中心に市民の満足度を見ていたが、厳しい状況にあると感じた。その辺りをもっと考えていく必要があると思う。

[遠藤(摂)委員]

皆さんに愛される角田を目指すために、まず、若い人たちに増えてもらいたい、若い世代の家族に来てもらいたいと思う。そのためには、小児科がない、産婦人科がないではいけない。安心して子どもを産み育てられる、魅力的な街になってもらいたいと考える。

[狩野委員]

産業振興の観点から、アイリスオーヤマさんやケーヒンさんなどの有数企業や、JAXAという特徴的な施設が立地している強みを活かせるような手立てを講じていく必要があると感じている。また、観光の観点からは、角田市単体ではなく、周辺市町と連携して取り組んでいただきたい。

[上條委員]

市民が必要としているところを優先的に取り入れていくことが肝要であると感じている。弊社の商品開発においても、お客様の要望を中心に吸い取って開発を目指していることが、ある程度の成功に繋がっていると考えているため、このような意見をさせていただいた。

[齋藤(善)委員]

財政的な制約等、様々な制約要件の中で、どのように現状を変えて、目標を達成していくのかということが重要であると考えている。優先順位や実現可能性を考慮しながら進めていく中で、角田市がどのようなビジョンに向かって進めていくのかということが、判断する際の大切な要素になると思う。様々なミッションを進めていく中で、何を最終的に目指していくのか、そのビジョンが大事であると考えている。

〔菅原委員〕

「笑顔あふれる角田市」のようなイメージを考えている。また、アンケートの結果をみると、子育てに関する要望が多いようなので、その点をしっかりと盛り込む必要があると考える。また、【資料2】で、交通の利便性についての他市町との比較がなかったように思うので、交通の利便性についても考えていく必要があるのではないかと。

〔戸田委員〕

仕事上、角田市に関係する会社から様々な相談を受けているが、角田市は会社に対して冷たいという話を聞くことが多い。開発協議の関係でも非常に厳しいといった話も出てくるなど、会社に対してあまりウェルカムではないという風に会社側から見られているようである。もう少し会社のことを想った政策を進めていただき、企業立地の振興などを図っていただきたいと思う。

〔一柳委員〕

銀行という立場から、まずは、角田市のトップライン、歳入、税収の確保を優先的に考えていく必要があると考える。お金がなければ何もできないため、まず実入りを増やしていくことで、角田市を持続していくことが大事である。そういったことを踏まえ、企業立地の振興や安定した雇用の確保などについてしっかりと議論を進めていく必要があると感じている。

〔堀米委員〕

この審議会で私たちがどこまで審議するのが中々つかめない。前日も市民目線で策定してはどうかということを発表したが、ここでの発言・議論がどのように計画に反映されるのかが見えない。ただ意見を言うだけで終わってしまうのではないかとこの疑問がある。

人口減少は避けられず、大きな新しい時代に向かっていると考えるが、行政の手法やまちづくりの方向性について、今までのやり方の中でどう進めていくかということしか考えていないように思う。今までのやり方ではできることが限られてしまうのではないかと。まちづくりの全体像と手法について、根本的なことを議論する時間が必要ではないかと。市民と一緒に作っていくまちづくり計画のような形にしていかなければならないと考える。また、民間企業や市民の皆さんとこの地域をどのように創っていくのかを議論する時間が必要であると考えている。

そこで、提案としては、できればフリーでそういった問題について議論ができる時間をいただければと思う。ご検討いただきたい。

〔柳井会長〕

事務局からの説明にあったSWOT分析という手法だが、特に機会・脅威についてはまだまだ深掘りが足りないように思う。また、今後こういった会議の運営等に関する意見をどのように吸収していくかに加えて、委員の方々がぱっと見て理解ができ、それを踏まえて意見が言えるような、また最終的にはそれが総合計画に反映されるような進め方を検討していただき、次回以降に活かしていただきたい。

[松本委員]

労働組合から参加させていただいているため、安心して暮らせる・働けるということ
を重要視している。子育て、介護、防災・減災といったことも重要であるが、そこで働
く方たちの意見も同様に重要であると考え。そのため、働く方たちのニーズを十分に
捉えることが必要である。ただし、ニーズだけをそのまま捉えてしまうと社会の変化に
対応できなくなる可能性があるため、将来性を見据える必要がある。ニーズと将来性の
中道的なところを捉えていければよいのではないかと考えている。

[砂金委員]

【資料2】13ページにあるような、市民が不満と考えている、または進捗度が低い
施策にポイントを当てて議論していかなければならないと考える。また、子育てにおい
ての安全・安心度などについても重点的に取り組んでいかなければならないと考える。
ただ、他の市町村よりも抜きでる必要はなく、他の市町村並みに肩を組んでいければ
良いのではないかと。そういう意味で底上げをしていきたいと考える。

[遠藤(清)委員]

地域が活発になれば、角田全体が活発になると考える。少子高齢化が進む中で、まず
各地域を活発化させていくことが重要と考える。

[小野(孝)委員]

これからを担っていく子どもたちのために、積極的に企業を誘致し、子どもたちが角
田に留まるような施策に取り組んでいただきたいと思う。

[小野(陽)委員]

私自身今回のアンケートに回答したが、角田のために何をすればよいかを考えさせ
られる良い調査だったと感じている。

[加藤委員]

産業の振興というところで、人口問題にしても定住人口の拡大にしても、企業誘致が
重要なポイントではないかと考える。企業を誘致するにあたっては、どういう企業を誘
致するのか、角田市としてどういう特徴を持った地域にするのか、深掘りした考え方が
必要である。ぜひ最重要課題として取り上げてほしい。

[齋藤(勤)委員]

一点目は、人口の見通しについて、楽観的なものではなく現実的な目標にすべきであ
ると考える。二点目は、アンケートについて、隣町などに比べてどうかといったことを
基準として相対的に比較していると思われるが、絶対的なものよりもそういった相対
的なものを行政は意識してほしい。三点目は、財政が厳しい状況にあるということ
について、5年や10年のスパンであれば、ある程度財政状況を修正できると考えら
れるため、夢の持てるような行政運営も可能と思われる。行政サイドとしては、そのよ
うな内容についても計画に反映していただきたい。

最後に、環境保全関係については、一団体だけでは中々動けないというのが現状であ
る。そういった面についても、指導的なことも含めて広く展開していただければ良いと

考える。

〔島津委員〕

これからを担っていく子どもたちが心身ともに健全に育っていくことが最重要と考える。それにより、若い世代の定住、流出防止にもつながっていくものと考えことから、子育てしやすい環境づくりを考えていきたいと思う。

〔高橋委員〕

交流人口100万人という言葉だけが先行し、その重要性について説明がなく、市民も理解していない状況であることから、今後、十分な説明をお願いしたい。

〔武智委員〕

今までのやり方に固執することなく、注目されるような角田らしい大胆な政策を行い、積極的に情報を発信し、見える化を図っていくことが大事である。また、PDCAサイクルにおける「評価」の後に「改善」して実行することが重要であり、そういったところを意識して進めていくことが大事であると考え。

〔毒島委員〕

人口減少を食い止めるという意味では、子育てしやすい環境づくりがとても重要と考える。市民アンケートでも重要だが不満といった結果が出ている。その点を重点的に取り組み、延いては学校教育の充実につなげていければと考えている。

〔毛利委員〕

市民アンケートにおいて、角田市独自の地域資源としてJAXAやスペースタワー・コスモハウスが上位にあり、芸術文化振興会としても宇宙に関する取組を行ってきたが、中々浸透しない。角田市や学校関係者がそういう方向に向かなければ、いくら活動をして難しいものである。昔は宇宙に関する取組も活発であったが、現在は停滞している。子どもたちが大人になってから角田市を誇りに思えるような取組をもっと進めていくべきであり、総合計画にも具体的に盛り込んでいく必要があると考える。また、賑わいのまちとしていくために、田園ホールの活用についても総合計画の中に盛り込んでいただきたい。

〔渡邊委員〕

スポーツ振興については、アンケートでも満足度が高く、教育委員会、スポーツ協会としても他の市町よりも力を入れて取り組んでいることは確かであると思う。その中でも、現在、協会がないスケートボードやeスポーツなどの種目の要望にどのように対応していくかを検討している。そういったものを含めて角田市の健康づくりを考えていく必要があると考えており、また、そのような魅力があれば定着していくと考える。

〔安藤副会長〕

地域包括ケアシステムの構築・深化と、病院機能分化が進められてきている。そして、高度医療や産科小児科などは、専門性の維持と人口減少の中で集約化が進められてきた。一方、地域包括ケアシステムを推進していくために、地域では医療・介護の連携や効率化等が進められている。団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題、さらには

高齢者そのものが減少する2040年問題を抱えており、すべてのものはそのまま維持することはできない時代に突入した。これから、何を守り、何を改革していくのかということを実際に議論していかなければならない。

一番重要なのは私たち自身の意識改革であり、持続可能な社会を作っていくために取り組まなければならないことに早く取り組んでいくことである。従来の手法は通用しないということも考慮した上で、市のビジョン・理念が大切となる。例えば、子育て支援においても、ただ単に子育てをしている人を支援すればいいということではなく、男女共同参画や多様性を認め合うようなダイバーシティ社会の構築なども進めていかなければ、子育て支援には結びついていかないのではないかと思う。やはり市としてのビジョンを大きく打ち出すことにより、10年後、20年後の理想を追求していければ良いのではないか。

[柳井会長]

事務局には、委員の方々のご意見を受け止めて、より良い総合計画にさせていただきたい。

(4) その他

長期総合計画審議会における協議内容について、事務局（齋藤企画調整係長）より、【資料3】に基づき、説明を行った。また、委員よりご意見のあった角田市のビジョンや将来像を見出すための自由な議論の場の設定については、事務局で今後検討することを併せて説明した。このことに係る質疑等は以下のとおり。

[柳井会長]

総合計画は10年程度の計画となるので、なるべく若い人、これからの時代を担っていく人の意見を集約できるような手法を考えていただきたい。

[堀米委員]

今後10年の施策のあり方をどうしようかというのが当局のニーズであると思うが、まちづくりの全体像というのはそれだけでは済まない部分も多い。この審議会でもまちづくりの全体像・将来像について話し合うのか、限られた予算とマンパワーの中での施策の妥当性だけを話し合うのかが分からない。できれば10年後ではなく30年後に向かってまちづくりのビジョンをみんなで議論し、その中で10年間の施策をまとめていくやり方が良いと考える。民間との協働の中で、または市民参画の中で、どういう風にまちづくりをしていくかということを中心に話していかなければちゃんとした計画にはならないと感じている。

6 閉会

第2回角田市長期総合計画審議会委員出席者名簿

No.	役職	氏名	所属等	構成区分	備考
1	会長	柳井 雅也	東北学院大学 教授	知識経験者	
2	副会長	安藤 由紀子	角田市医師会	知識経験者	
3	委員	遠藤 恵美子	角田光の子保育園 園長	知識経験者	
4	委員	遠藤 摂子	社会福祉法人 あけの星会 理事長	知識経験者	
5	委員	狩野 裕一	大河原地方振興事務所 地方振興部長	知識経験者	
6	委員	上條 徹	アイリスオーヤマ(株) マネージャー	知識経験者	
7	委員	菊地 恵美子	みやぎ仙南農業協同組合 理事	知識経験者	欠席
8	委員	齋藤 善宏	(株)ケーヒン 宮城オフィス 管理本部 総務部 宮城総務課 課長	知識経験者	
9	委員	菅原 満	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 角田宇宙センター 角田管理課 課長	知識経験者	
10	委員	戸田 宏士	戸田宏士司法書士事務所	知識経験者	
11	委員	一柳 知秋	七十七銀行 角田支店 支店長	知識経験者	
12	委員	堀米 荘一	合同会社あぐりっとかくだ 代表社員	知識経験者	
13	委員	松本 篤志	連合宮城仙南地域協議会 角田地区会議 議長	知識経験者	
14	委員	砂金 甚一	角田市社会教育委員	公共的団体の役員	
15	委員	遠藤 清子	角田市民生委員児童委員協議会 西根地区会長	公共的団体の役員	
16	委員	小野 孝子	角田市統計調査員協議会 会計	公共的団体の役員	
17	委員	小野 陽子	角田市各種女性団体連絡協議会 会長	公共的団体の役員	
18	委員	加藤 泰彦	角田市商工会 会長	公共的団体の役員	
19	委員	齋藤 勤	角田市環境衛生組合連合会 会長	公共的団体の役員	
20	委員	佐久間 幸男	角田消防署 署長	公共的団体の役員	欠席
21	委員	島津 恵美	角田市民生委員児童委員協議会 主任児童委員部長	公共的団体の役員	
22	委員	高野 絹子	角田市商工会 女性部 副部長	公共的団体の役員	欠席
23	委員	高橋 輝昭	角田市行政区長連絡協議会 会長	公共的団体の役員	
24	委員	武智 照道	角田市行政区長連絡協議会 副会長	公共的団体の役員	
25	委員	毒島 弘美	角田市教育委員会 委員	公共的団体の役員	
26	委員	毛利 良子	角田市芸術文化振興会 会長	公共的団体の役員	
27	委員	渡邊 峰雄	角田市スポーツ協会 理事長	公共的団体の役員	

第2回角田市長期総合計画審議会事務局出席者名簿

策定本部

No.	役職	職	氏名	備考
1	本部長	市長	黒須 貫	途中退席
2	副本部長	副市長	牛澤 順	
3	副本部長	教育長	佐山 富夫	
4	委員	総務部長		
5	委員	市民福祉部長	中村 方彦	
6	委員	産業建設部長	日下 茂夫	
7	委員	教育次長	森山 旭	
8	委員	会計管理者	泉 隆司	

事務局

No.	職	氏名	氏名
1	企画財政課 課長	玉 淵 和 紀	
2	企画財政課 課長補佐	大 槻 康 弘	
3	企画財政課 企画調整係 係長	齋 藤 謙	
4	企画財政課 企画調整係 主査	長 田 孝 奈	
5	企画財政課 企画調整係 主査	安 達 宗 平	